

市町村名		今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-① 今帰仁村健康長寿体験滞在型観光の促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(1)-ア			
	福祉保健課		事業実施(予定)年度	平成24~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所			
担当部課名	福祉保健課		事業実施(予定)年度		Ⅲ-1-(1)			
事業内容	<p>・今帰仁村の健康につながる様々な資源を取り込み、来訪者に多様な健康づくりと観光活動の機会を提供する。「ヘルスツーリズム」推進し、民泊事業等による観光の振興を図る。本事業では、住民からのアンケート調査結果や会議を通し長寿の秘訣を探り、健康長寿基本システムを構築することで、体験滞在型観光を促進する。</p>							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,183	16,777	10,664	10,784		
		(b) 予算現額	7,183	15,647	9,457	6,387		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 1,130	▲ 1,207	▲ 4,397		
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-		
		A. 計(b+d)	7,183	15,647	9,457	6,387		
	B. 執行済額		4,836	15,647	9,457	6,387		
	うち交付金充当額		3,868	12,517	7,566	5,109		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		67.3%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		<p>・推進委員による健康長寿作戦会議、行政区における健康長寿実施を当初予定通りアンケート調査報告も併せて開催した。</p> <p>・村観光協会と連携し、プロモーションビデオの作成と県外からのモニターツアーを実施。</p> <p>・4,397千円の不用額は、推進委員会の開催が3回から2回となったことと、空き家調査業務の所管換えによるもので、予算範囲内の適正な執行ができた。</p>						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	・ヘルスツーリズムの充実及びモニターツアーの開催(2回)	目標	(1,987件)	(アンケート調査の実施)	(プロジェクトチームの設立)	(ヘルスツーリズムの充実モニターツアーの開催2回)		
		実績	1,847件	アンケート調査の実施(報告書の完成)	プロジェクトチームの設立の実施	ヘルスツーリズムの充実モニターツアーの開催2回		
	・健康長寿作戦会議の開催(3回) ・健康長寿作戦実施(3回)	目標	(2回)	(3回)	(作戦会議3回 作戦実施3回)	(作戦会議3回 作戦実施3回)		
実績		2回	3回	作戦会議3回 作戦実施3回	作戦会議2回 作戦実施25回			
達成状況説明		<p>・推進による健康長寿作戦会議2回実施した。また、作戦実施として行政区で健康づくりプログラムの立案を3回、プログラムの実施としての運動指導健康づくり教室11回と健康長寿レシピ集を活用した栄養指導健康づくり料理教室11回を開催した。</p> <p>・村観光協会と連携して今帰仁村の魅力を発信するプロモーションビデオを作成した。また、県外からの健康長寿体験滞在型観光モニターツアーを2団体に対して実施した。</p>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	27年度	
	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアーの開催(山形県酒田市20名 他東北の1県より20名)	目標	(0) (0)	(1,987件) (3回)	(①調査実施 ②プログラム) (立案)	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・プロジェクトチーム会議(1回)	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアー開催2回	
		実績		(1,847件) (2回)	①調査実施 ②プログラム立案	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施(立案会議のみ3回) ・プロプロジェクト会議2回	・地域で共に支えあう健康づくりプログラムの立案と実施 ・モニターツアー開催2回	
	【参考指標】 ・主要観光施設における観光客数		目標	(248,500人)	(261,000人)	(274,000人)	(287,000)	(300,000)
			実績		249,998人	266,398人	286,215	293,331
進捗状況説明		<p>・行政区での健康づくりプログラム立案の会議を3回開催し、今年度以前にプログラム立案された行政区を含めて運動指導と栄養指導健康づくりプログラムを22回開催した。</p> <p>・今帰仁村の魅力ある観光と医療ツーリズムを活用した健康長寿体験滞在型観光モニターツアーの推進が2年目となり、今年度から東北2県からのツアーが行われ、商品化に向けた取り組みが図られている。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 地域で支えあう健康づくりプログラムの立案と実施について、幅広い年齢層の参加による取り組みとなるよう工夫が必要である。 健康長寿体験滞在型観光モニターツアーについては、平成27年度からこの事業目標である観光協会との連携による民泊のモニターツアーを実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりプログラムの日常の実践と健康寿命の延伸、健康的な地域づくりの促進に向けて、健康づくりを個人の問題ではなく地域社会が取組むべき問題として捉え、同時に重要な課題として地域で支えあうプログラム立案と実施を検討する。 健康長寿体験滞在型をモニターツアーから継続的旅行商品としての検討。

今後の取り組み方針

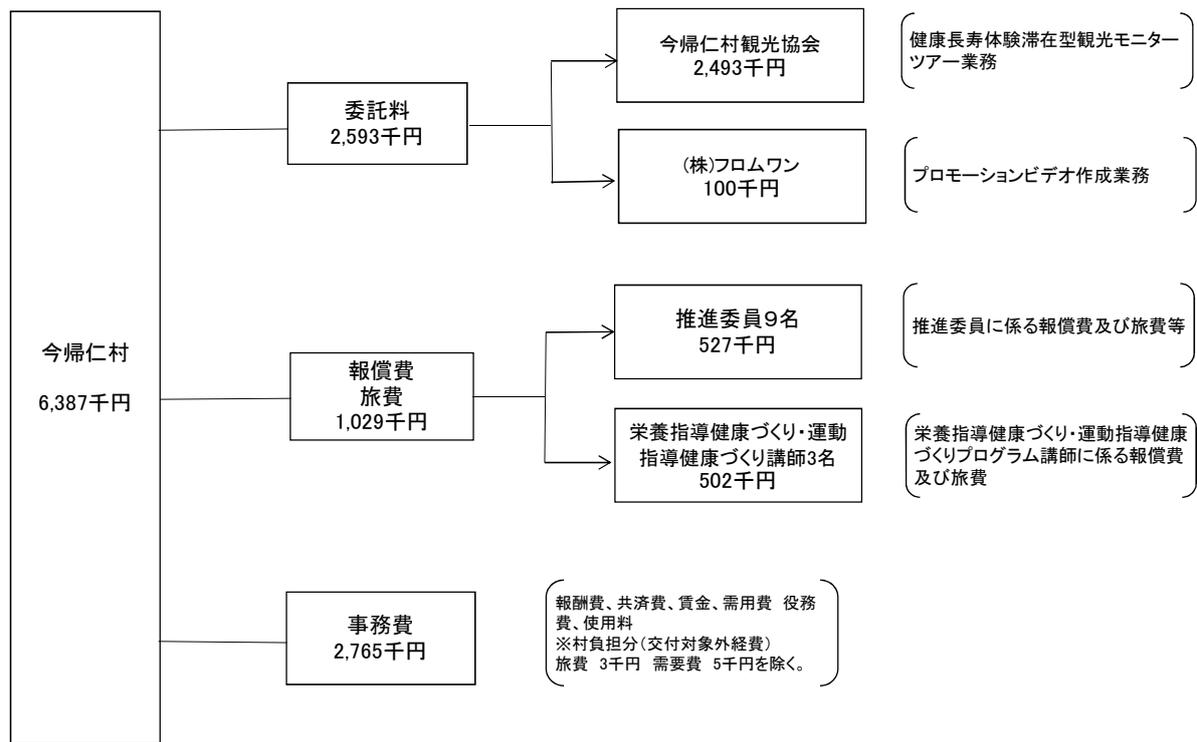
・今後も継続して、各行政区の関係者との協働による健康長寿作戦会議により事業の相互理解を深め、地域の実情に合わせた健康問題、課題、解決策、健康づくり計画を立案し実施する。

・健康長寿体験滞在型観光モニターツアーの継続的な商品化を目指し、観光協会、地元自治体、地域関係者の連携により事業を展開する。

・地域で共に支えあう効果的な健康長寿推進を図り、モニターツアーを日常の関心事である「健康」と「旅行」が融合した魅力ある宿泊旅行商品とし、さらに地元住民と旅行者相互の交流による質の高いライフスタイルの形成に貢献する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,395	6,387	5,109	1,278	8



資金の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料については、当初予定していた今帰仁村観光協会と契約を締結し、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、4,397千円の減額を行って適正であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

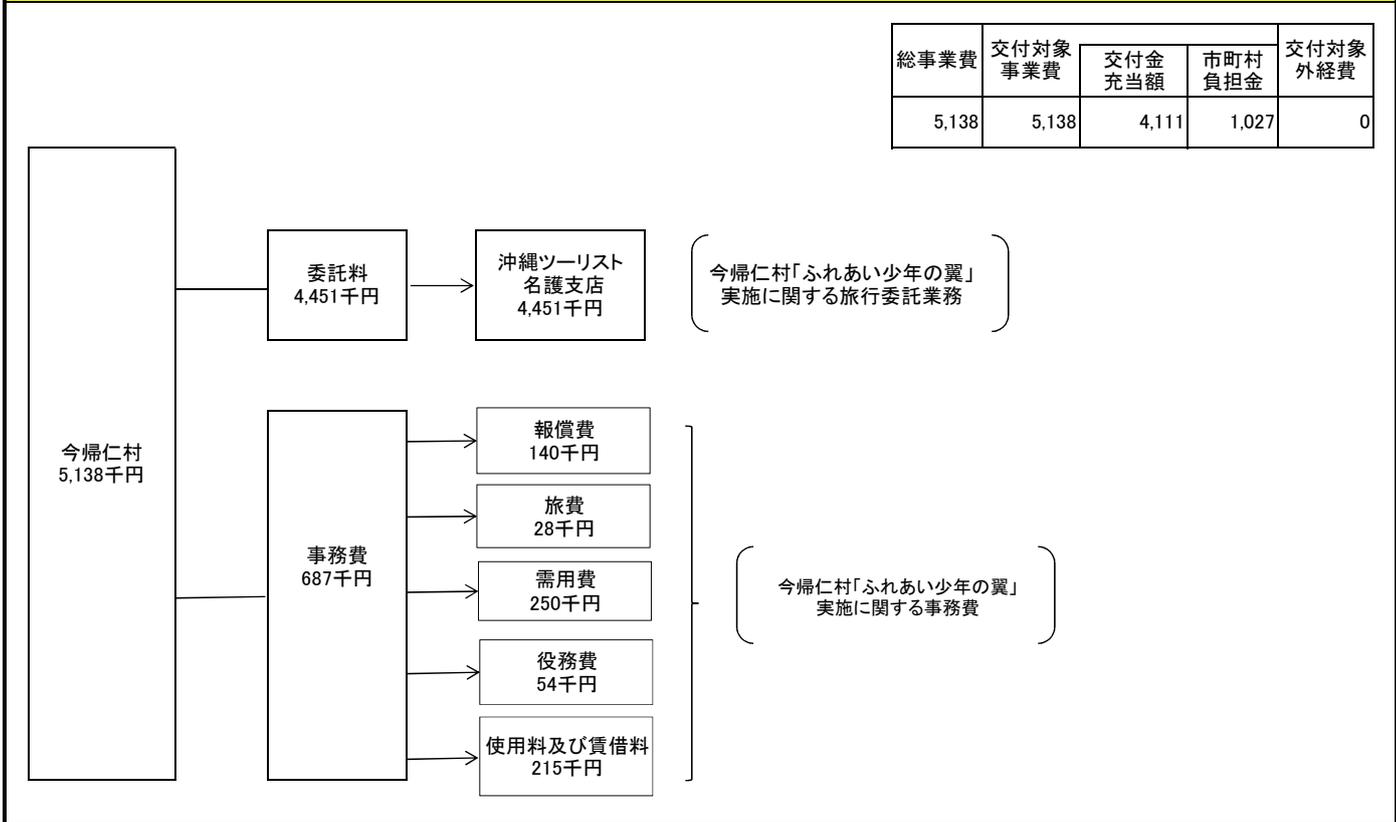
市町村名		今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①		人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
	担当部署名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体をはぐむ教育の推進	
					III-3-(1)			
事業内容								
・小学生を対象に、山形県酒田市と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流を行うことにより、子供達の視野の広がり及び教養に対する意欲と将来に向けての刺激を与える。								
実施方法								
<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）								
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a) 当初予算額		7,093	4,934	5,142	5,187	
		(b) 予算現額		7,093	4,894	5,076	5,138	
		(c) 増減額 (b-a)		0	▲ 40	▲ 66	▲ 49	
		(d) 前年度繰越額		-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)		7,093	4,894	5,076	5,138	
		B. 執行済額		4,692	4,894	5,076	5,138	
		うち交付金充当額		3,753	3,915	4,060	4,111	
		次年度繰越額		0	0	0	0	
		執行率 (%) (B/A)		66.1%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明								
・予算の範囲内で適正な執行が行えた。								
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	・派遣生徒数:36人	目標	(36人)	(36人)	(36人)	(36人)		
		実績	36人	36人	36人	35人		
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明								
・1名途中辞退者が出た以外は、全日程を計画どおり実施することができた。								
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	27年度	
	・酒田市新堀小学校との交流会の実施 ・酒田市内での民泊の実施 ・スキー体験の実施 ・報告会の実施(1回)	目標	(36人)	(36人)	(36人)	36人 報告会(1回)	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会	
		実績		36人	ジュニアリーダー及び「現代版組踊 北山の風」での活動の実施	36人 報告会(1回)の実施	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会(1回)	
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明							
・参加者は、派遣後、報告会において団員の個人のテーマ、班のテーマの自己評価を各自発表した。また、教育長による地域や村のジュニアリーダーとしての講話を行った。その他、参加者全員の報告書の作成を実施した。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・今帰仁村の歴史や文化について、参加者の理解をより深めるために、事前研修で今帰仁村歴史文化センター館長より学習会を行った。 ・本村の学校・地域・文化等のPRをより効果的に行うため、今帰仁村の紹介ビデオを作成し、作成したビデオを酒田市の交流会で発表を行った。 ・山形でのスキー教室の際に、地元のスキーインストラクター「遊雪会」の高齢者の方々から指導を受け交流した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的を踏まえ、山形県酒田市と指導者育成の為、南国沖縄県にとって本州の北に位置するまさに「異文化」であり異なる環境での生活、文化、歴史等について、事前研修を増やしさらに見聞を広げる必要がある。また、事前研修の中で山形県や酒田市についての学習の機会を増やす。

今後の取り組み方針

- ・荒天時の対応も想定し、計画を立案する。
- ・事前研修の中で山形県や酒田市についての学習時間を増やす。また、前回までのビデオ等を視聴するなどイメージを膨らませる工夫をする。
- ・H28年度以降も、これまでの計画を基本として、随時内容を検証し、必要に応じて計画の立案に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の流れ、点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託業者については、随意(見積もり合わせ)契約で選定し妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模については、適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②		東ティモールと本村児童の交流推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	担当部課名	教育委員会 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
					Ⅲ-3-(1)			
事業内容								
<p>・東ティモールの児童を招聘し、本村3小学校との交流で国際感覚を育成し、今後、人道的支援を目指し、異文化交流を通して本村児童の人間性の育成や国際貢献できる人材の育成を図り、又、本村の小学校校歌の作詞関係者であるソプラノ歌手(講師)を村内の各学校に招聘し、コンサートと東ティモール支援に係る講演会を実施する事によって、本村児童と東ティモールの児童との交流が図られる。</p>								
実施方法								
<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()								
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,400	1,644	1,644	2,144		
		(b) 予算現額		1,644	1,643	1,643		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,400	0	▲ 1	▲ 501		
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-		
	A. 計 (b+d)		0	1,644	1,643	1,643		
	B. 執行済額			1,644	1,643	1,643		
	うち交付金充当額			1,315	1,315	1,315		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)			100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明								
・予算当初より501千円減額したが、予算の範囲内で適正な執行が行えた。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	・東ティモールからの受入児童数:4人、引率:2人	目標	(受入児童数:4人 引率:2人)	(受入児童:2人 引率:3人)	(受入児童:4人 引率:2人)	()		
		実績	受入児童数:2人 引率:3人	受入児童:4人 引率:2人	受入児童:4人 引率:2人			
	・コンサートの開催(4回) ・講演会の開催(4回)	目標	()	()	(コンサートの開催4回 講演会の開催4回)			
		実績			・コンサートの開催2回 ・講演会の開催2回			
達成状況説明		<p>・児童4人及び引率2人を招聘した。村内には3泊4日の滞在で、村内3小学校において交流会・交流学習・コンサートを行っている。交流学習では、習字やエイサー、調理実習をしたりして交流を深めることができた。また、宮良多鶴子さんによる東ティモールのお話やコンサートの中で平和の大切さや文化の違いを実感することができた。4名の児童は、村内の家庭に民泊し、各家庭でも国際交流を深めることが出来た。</p> <p>・今回は、今帰仁中学校と地元にある県立北山高校だけで、コンサートと講演会を行ったため2回となった。</p>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	28年度	
	・東ティモールとの本村の児童との交流	目標	()	(受入児童数:4人 引率:2人)	受入児童数:2人 引率:3人	・東ティモールとの本村の児童との交流		
		実績			受入児童数:2人 引率:3人	受入児童数:4人 引率:2人	・東ティモールとの本村の児童との交流の実施	
	・コンサート参加者700人 ・講演会参加者700人	目標	()	()			コンサート参加者700人 講演会参加者700人	
		実績					コンサート参加者614人 講演会参加者614人	
進捗状況説明		<p>・児童4人及び引率2人を招聘し、本村3小学校の児童生徒等と交流活動を行った。具体的な交流活動としては、習字を書いたり、エイサーをしたり、家庭料理の授業で調理実習をしたりして交流学習を行った。</p> <p>・4名の児童は村内の家庭に民泊し、各家庭でも国際交流を深めることができた。</p> <p>・今回は、今帰仁中学校と県立北山高校だけで、コンサートと講演会を行ったため614名となった。</p>						

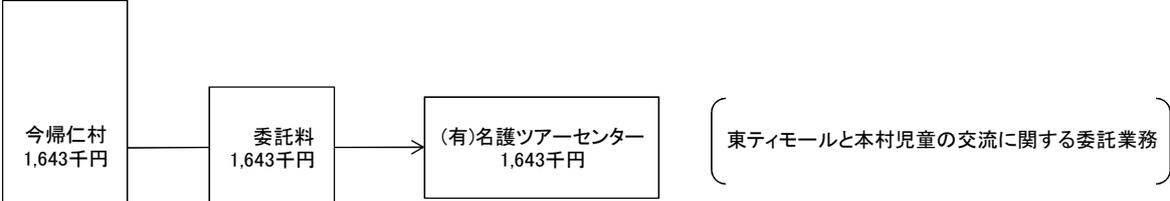
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 東ティモールからの移動日数も一週間程度かかることから児童の体調面を考慮しながら交流を推進していきたい。 児童生徒の選考を8月から9月の間に行い、児童4名以上を招聘したい。 引率者2名で4人の児童を引率対応できるので今後も引率者2名で実施していきたい。 今帰仁中学校と県立北山高校でコンサートと講演会を行い今後も継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 東ティモールから招聘する児童の選考については、体力的な観点から「6年生に該当する児童」としている点や経済的な問題等から4名の招聘となった。招聘する学生の選考について、弾力的に対応することで4名以上の児童を派遣できるよう目指したい。 今後においては、引率者2人対し招聘する児童を4人以上が派遣できるように目指したい。

今後の取り組み方針

・国際感覚を育成するためにも、本村の児童生徒の派遣も視野に入れ人道的支援や交流を続けていきたい。
 ・今帰仁村においてホストファミリーと日常生活に過ごし、沖縄文化、今帰仁村の自然、東ティモールの文化を児童がそれぞれ披露しあい、書道、染色、三味線などの体験学習、体育、図画工作の事業への参加など、児童がお互いに教え合い、助け合いながら事業に参加し、「思いやりの心」「理解し合う心」を育てる。東ティモールとの交流により、小さく貧しい国に対しても目を向け、苦しみの中にいる人々にも手を差し伸べ、地球規模の物事を考えることのできる人材を育てる。
 ・今後は、引率者を最低限に抑え、受入児童の人数を増やせる環境及び体制づくりを行い、本村の児童との交流を推進していく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,643	1,643	1,315	328	0



航空運賃(デイリー香港～沖縄)	974
燃料・航空利用税	82
海外旅行総合保険	58
滞在費(ティモール国内)引率者送迎	90
現地滞在費	98
課外活動費	15
招聘運営費(沖縄での宿泊費等)	326
合計	1,643

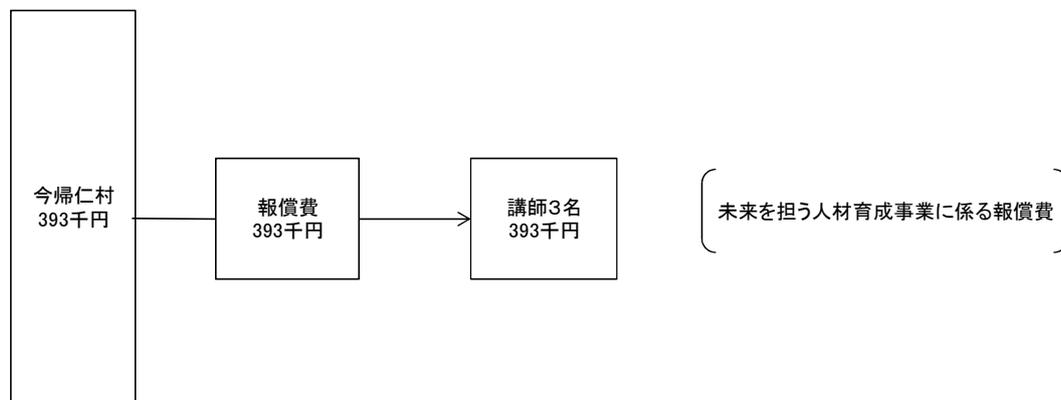
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、(有)名護ツアーセンターだけが実施しているため妥当であると考えます。 ○予算規模については、適正であったと考えます。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	未来を担う人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部署名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	・大学進学に特化した大学進学講座を実施し、進学実績の向上と地域に根ざした特色ある学校づくりの観点から地域教育資源を活用し学力向上と地域の活性化を目指す。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)		775	2,002	2,010	871	
			775	924	609	393	
			0	▲ 1,078	▲ 1,401	▲ 478	
			-	-	-	-	
		90	924	609	393		
	B. 執行済額 うち交付金充当額	72	739	487	314		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)	11.6%	100.0%	100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明	・当初予算額は95日で積算し計上したが、92日の実施となったため、478千円の減額となった。しかし予算の範囲内で適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	・大学進学講座の開催 開催時期：7月～2月 開催日数：95日(週3日程度) 開催講座数：1日あたり90分×2コマ	目標	(16名)	(16名)	開催時期：6月～3月 (開催日数：120日) 開催講座数：2コマ	開催時期：7月～2月 開催日数：95日 開催講座数：2コマ	
		実績	16名	9名	開催時期：7月～3月 開催日数：57日 開催講座数：2コマ	開催時期：4月～1月 開催日数：92日 開催講座数：2コマ	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・前年度から継続の受講生もいて、4月から開催ができた。 ・平成27年4月から講座が始まり、週4日で火曜日は1クール90分の2クール、水曜日以外同様実施。夏・冬休み期間中も同様実施した。 ・講座参加人数は目標の10名は、実績では1・2年生を含めて17名であった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	27年度	
	・講座参加人数：10名	目標	()	(16名)	(16名 50%)	(10名)	(10名)
		実績		16名	9名 67%(9名中6名)	7名	17名
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・平成27年4月から講座が始まり、週4日で1クール90分の2クール、水曜日以外同様実施。夏・冬休み期間中も同様実施した。 ・3年生の講座参加人数11名で国立大学に3名合格した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・年度の早い時期からの開催と、地域・行政・学校が一体となった取り組みの成果で国立大学合格者が1名→3名と増えた。今後も取り組みを継続していく。</p>	<p>・受講生の募集の啓蒙活動及び講師人選、時間調整等を十分に行いスムーズに事業が行えるように努める。 ・北山学園構想の一環として、村内にある北山高等学校の学力向上と理数科及び普通科の生徒の国公立大学等の進学を目指し、スケジュールやカリキュラム内容等を検証し、より質の高い講座を実施できるように努める。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・大学進学に特化した理数科を抱える北山高校にとって国公立大学への進学実績の向上は、必要不可欠であり地域・行政・学校が一体となった取り組みを図る。 ・講師と連携を図り、個別にきめ細かい対応ができるよう協力体制を整え授業の充実を図り、合格率の向上に努めていきたい。</p>		

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
393	393	314	79	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○講師の報償費は北山高校が県立であるため、県の非常勤講師の時給を参考に行い妥当と考える。 ○予算規模については、478千円を減額を行ったが適正だと考える。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	教育環境充実事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進				
担当部署名	教育委員会 学校教育課	事業実施 (予定)年度 平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 III-3-(1)				
事業内容	・児童生徒、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、各幼稚園、小中学校に支援員を配置する。また、幼稚園では預かり保育を実施する人員も確保し、保護者のニーズに対応する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額	A. 計 (b+d)	17,263	21,353	29,770		
		B. 執行済額	16,826	19,855	21,294		
		うち交付金充当額	13,460	15,844	17,035		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%		
	予算の状況の説明	・幼稚園(預かり保育)と小学校特別支援員の減により、当初予算より8,476千円の減額となったが、事業計画等は適正に進めることができた。					
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況			
		支援員・預かり含む配置人数 ・幼稚園(預)4人 (特)0人 ・小学校(学)3人 (特)8人 ・中学校(学)1人 (特)1人	目標	25年度	26年度	27年度	28年度
			実績	幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)0人	幼(学)0人(特)0人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)1人	幼(預)4人(特)0人 (小(学)3人(特)8人) 中(学)1人(特)1人	()
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		・幼稚園の預かり保育人員の減、幼稚園の特別支援の増。 ・小学校特別支援員の減。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・児童生徒の学力や学習意欲の向上 ・児童生徒が困ることなく、学校生活を送れるようにサポートを行う。	目標	()	・学力や学習意欲の向上 ・100%	・学力や学習意欲の向上 ・100%	・学力や学習意欲の向上 ・児童生徒へのサポート	()
		実績		・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・100%	・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・100%	・学力や学習意欲の向上が図られた。 ・児童生徒へのサポートを行った。	
		目標	()				()
		実績					
	進捗状況説明	・学習支援員による学習面へのサポートだけでなく、特別支援員による児童生徒への精神面への寄り添いなどにより、学校生活を送る上で子どもたちは少しずつ成長している。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・学習支援員および特別支援員は学校経営上なくてはならない存在となっているが、対象児童生徒の数は年々増加の一方であるため、きめ細かい対応まで至っていない部分も見受けられる。</p>	<p>・学習支援ボランティア(大学生)と連携を取り、個別にきめ細かい対応ができるように協力体制を整え、学習支援員、特別支援員の個々の処理能力を高めるため研修を実施する。</p> <p>・園児、児童、生徒の成長を保護者や教員、そして支援員で随時情報交換し、状況を把握しながら、支援の必要などころには適切に配置、サポートしていけるよう更なる体制強化につとめる。</p>

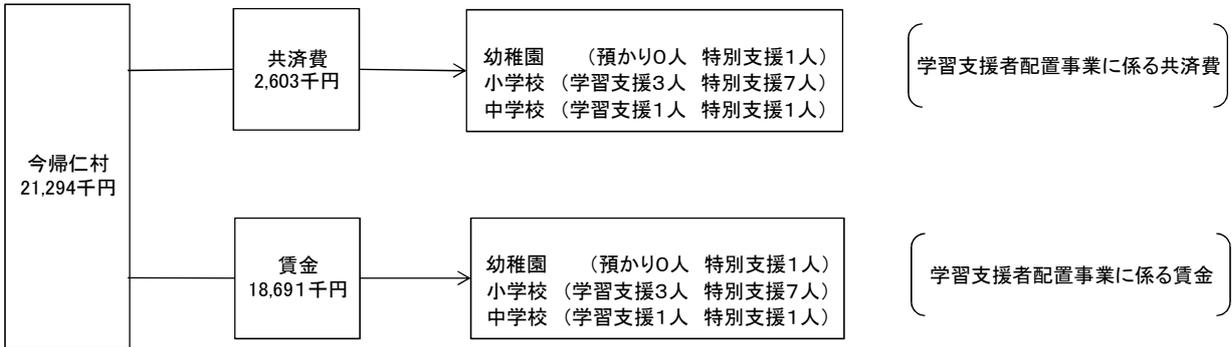
今後の取り組み方針

・学習支援員及び特別支援員は、学校経営上なくてはならない存在であるので今後も配置していきたい。

・園児、児童、生徒の成長を保護者や教員、そして支援員で随時情報交換を行い、状況を把握しながら、支援の必要などころには適切に配置、サポートしていけるよう更なる体制強化に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
21,294	21,294	17,035	4,259	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支援員については、ハローワークにて公募し面接で決定している。更に学習支援員においては、「教員免許の所持」を条件としてさだめており、適切かつ妥当な選定である。</p> <p>○予算規模については、8,476千円の減額を行ったが、適正であったと考える。</p> <p>○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	中高生海外語学留学支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育推進		
事業内容	<p>・英語を学ぶことへの関心・意欲を高めるとともに、「今帰仁村」の将来を担う、国際感覚豊かな人材育成のため、本村今帰仁中学校に在学する中学生2人(ハワイ2週間)及び北山高等学校に在学する本村出身高校生4人を(ジョージア州2週間)を対象に、夏季休学中に姉妹校等においてホームステイをする機会を与え、世界に羽ばたく人材を育成する。</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)		1,992	1,992	2,126		
			1,979	2,125	2,938		
			▲ 13	133	812		
			—	—	—		
		B. 執行済額	1,979	2,125	2,938		
		うち交付金充当額	1,583	1,700	2,350		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%		
		予算の状況の説明	<p>・中学生2人、高校生4人で計画していたが、中学生2人、高校生6人を派遣した。予算の範囲内で適正な執行が行えた。</p>				
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・留学生徒数 ・中学生:2人 ・高校生:4人	目標	(中学生:3人 高校生:2人)	(中学生:3人 高校生:2人)	(中学生:2人 高校生:4人)	()	
		実績	中学生:3人 高校生:2人	中学生:2人 高校生:3人	中学生:2人 高校生:6人		
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	<p>・留学生徒数 中学生:2人 高校生:6人を派遣することができた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・古宇利ハーフマラソン等で外国人選手との通訳ボランティア活動 ・今帰仁城跡やさくら祭りなどで外国人観光客の通訳及びボランティア活動	目標	()	通訳ボランティア活動の実施	通訳ボランティア活動の実施	通訳ボランティア活動の実施	()
		実績		通訳ボランティア活動の未実施	通訳ボランティア活動の実施	通訳ボランティア活動の実施	
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	<p>・今帰仁城跡桜まつりでは、土・日曜日の学校が休みの日に外国人観光客の通訳及びボランティア活動を実施することができた。 ・4月に開催した古宇利ハーフマラソンでは、外国人観光客の通訳ボランティアを実施することができた。</p>					

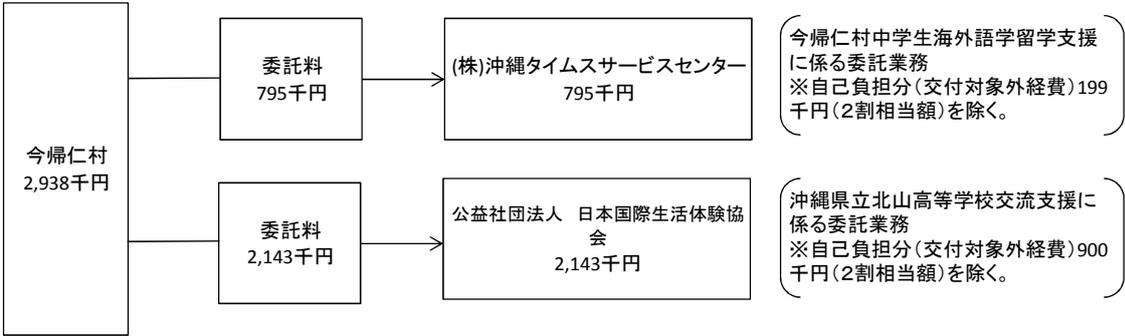
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカジョージア州、ミルトン高校と平成26年10月に姉妹校締結を行い今回は高校生6名の派遣となった。 ・今後も、1年生～2年生を優先して研修に参加してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生～2年生を参加させることにより、翌年度4月に開催される古宇利ハーフマラソンへのボランティア参加が容易になる。

今後の取り組み方針

・平成26年10月アメリカジョージア州、ミルトン高校と姉妹校締結を行い、今回は高校生6名の派遣となった。今後も同様な人数を派遣したい。また、今回は、外国人との通訳ボランティア活動が実施できたので、今後も、地元に残る中・高校生の1年～2年生を主体に留学生の対象として実施をしていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
4,037	2,938	2,350	588	1,099



ハワイ州ホノルル近郊 2名 × 99千円 = 199千円
 ジョージア州ワシントンD.C 6名 × 150千円 = 900千円
 合計 1,099千円

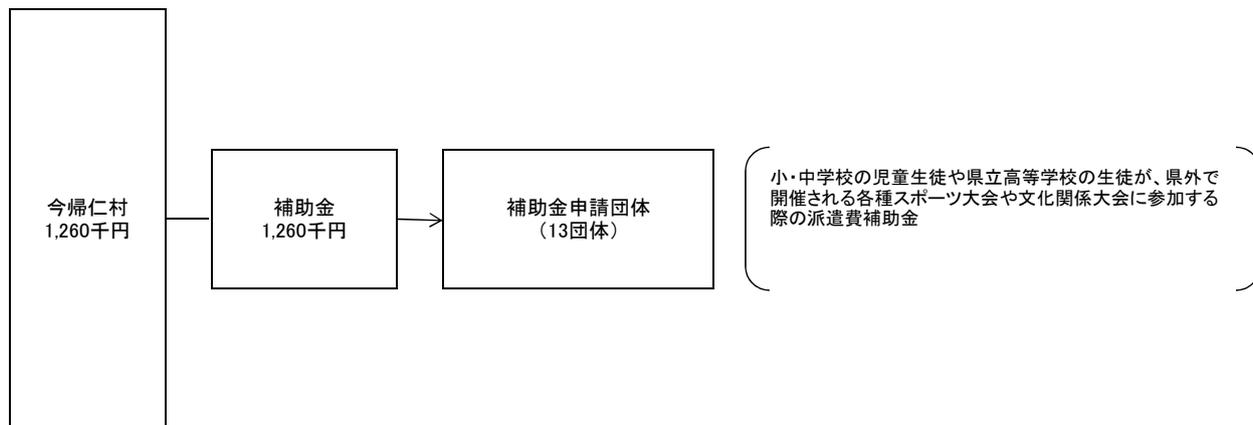
資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○中学生の海外ホームステイは(株)沖縄タイムスサービスセンターのみが実施しているため選定方法は妥当であった。また、高校生海外留学も公益社団法人 日本国際生活体験協会を選定し実施しが行えたので妥当と考えている。 ○予算規模については、適正だと考える。 ○総事業費の2割相当額(1,099千円)を自己負担(交付対象外経費)として計上している。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	児童生徒等の県外派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部署名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	小・中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣の費用を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,200	2,200	2,200		
		(b) 予算現額	2,045	2,335	1,260		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 155	135	▲ 940		
		(d) 前年度繰越額	—	—	—		
	A. 計 (b+d)		2,045	2,335	1,260		
	B. 執行済額		2,045	2,335	1,260		
	うち交付金充当額		1,636	1,868	1,008		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		児童生徒が県外で開催される運動競技会に参加する際の派遣費用の補助金申請に対して適正に審査し補助金の金額を確定している。派遣人数が目標値を下回ったため、940千円を減額し執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・村内児童生徒等のスポーツ大会等への派遣費を補助する	目標	(①20人 ②156人)	派遣費を補助	派遣費を補助	()	
		実績	①19人 ②99人	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	運動競技会13件(105人)の派遣費用の補助を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	①県外少年団野球大会(派遣人数) ②県外スポーツ大会(派遣人数)	目標	()	(①20人 ②156人)	①20人 ②156人	①20人 ②120人	()
		実績		①19人 ②99人	①19人 ②98人	①10人 ②105人	
		目標	()			()	()
		実績					
	進捗状況説明	県外の運動競技大会への派遣費補助を実施し、スポーツ活動を通じた児童生徒の健全育成が促進された。前年度実績(15件、117人(うち文化面1件、2人))に比べると、本年度は(13件、105人(うち文化面0件、0人))と減少し、目標値を下回る結果となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・派遣人数は、県外少年野球大会派遣20人と県外スポーツ大会120人の140人を見込んでいる。平成27年度においては全九州高等学校ホッケー大会、全九州高等学校陸上競技大会、第30回九州ジュニア選抜インドアテニス大会などの団体競技などの県外派遣があったことから75%の達成となった。要因は派遣対象となる大会が減少(県外野球大会派遣0人、県外高等学校ホッケー大会1減)したことで、派遣者数は成果目標を下回る結果となった。</p>	<p>・文化・スポーツ活動を通じた児童生徒の健全育成を目的に県外の運動競技大会や文化関係大会への派遣費について支援を行っている。 多くの児童生徒が同制度を活用し、県外大会に出場できるよう、部活動の振興を学校を通じていくとともに、地域のスポーツクラブや各文化活動団体とも連携を密にしていく必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・今年度は目標値に届かなかったが、今後とも学校を通じた支援をおこない児童生徒が県外での大会に参加し、よりレベルの高い環境でプレーする経験を積むことで、部活動の振興、強化を図る。それとともに地域のスポーツクラブや各文化活動とも連携を密にし、児童生徒自身の健全育成を促進する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,260	1,260	1,008	252	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各団体の申請に基づき審査を行い、選定を行っているのが妥当だと考えています。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、940千円の減額を行い、適正な執行ができたと考えております。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金要綱に基づき航空運賃の補助(補助率1/2)を行っており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
	3-①	景観形成強化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設課	事業実施 (予定)年度	平成24~28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	<p>・昔ながらの今帰仁村の景観が残る集落内の道路整備を行うことにより、観光客の集落内への受け入れ体制を強化する。 また、村が管理する道路の舗装、粉塵防止、防護柵等を整備し、車輛の安全及び歩行者が安全で歩きやすい歩行空間を確保することで、集落の深部への観光客受け入れ体制を整える。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+ 「市町村負担」 ベース）		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	77,061	50,430		59,830	63,472
		(b) 予算現額	77,061	50,430		51,829	62,637
		(c) 増減額 (b-a)	0	0		▲ 8,001	▲ 835
		(d) 前年度繰越額	—	—	14,336	—	—
	A. 計 (b+d)		77,061	50,430	14,336	51,829	62,637
	B. 執行済額		72,348	36,094	14,350	51,829	62,637
	うち交付金充当額		57,878	28,875	10,972	41,463	50,110
	次年度繰越額		0	14,336	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		93.9%	71.6%	100.1%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施し、適正であったと考える。また、835千円の不用額は入札残によるものである					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光客等が歩きやすい歩行空間の確保 (道路の舗装、粉塵防止、雑草防止、防護柵設置等)	目標	(2.2km)	道路の舗装、粉塵防止、防護柵設置等	道路の舗装、粉塵防止、防護柵等設置	道路の舗装、粉塵防止、防護柵等設置	
		実績	2.2km	道路の舗装、粉塵防止、防護柵設置等の実施	道路の舗装、粉塵防止、防護柵等設置の実施	道路の舗装、粉塵防止、防護柵等設置の実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・景観に配慮し、観光客が安全に通行(歩行)できるよう整備(舗装工事、防護柵設置工事、雑草防止工事)を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	27年度
	快適な観光アクセスルートの整備 (4.2km 全体計画の26%) 累積整備率(15.3km) 95%	目標	()	(2.2km)	(4.7km)	4.2km 整備率26%	4.2km 整備率26%
		実績		2.2km	4.7km	4.2km 整備率26%	4.2km 整備率26%
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・道路舗装を行いより集落内へ観光客を導き、雑草防止や防護柵設置により安全な通行ができることでさらなる観光拠点のアクセスを容易にし来客数の増へと寄与した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の舗装により集落内への観光客の受入を行うことができた。滑り止め、粉塵防止、防護柵を整備し安全な通行が可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き観光地域へのアクセスルートの整備が必要な箇所があり、継続的に景観形成強化事業を進めていく必要がある。

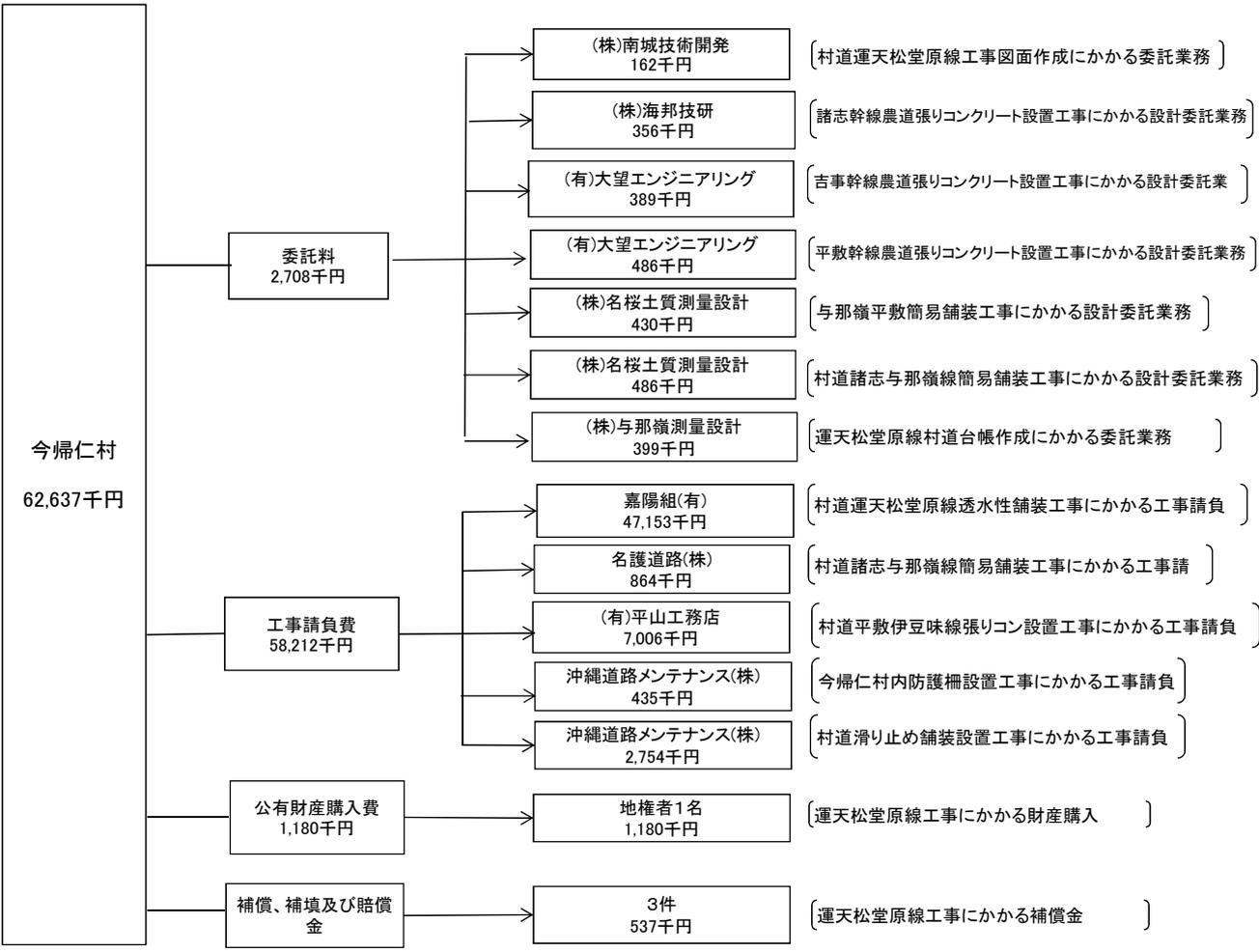
今後の取り組み方針

継続的に今帰仁村内の景観に配慮した道路整備を進めていく。

- ・張りコンクリート工事(天底・諸志)
- ・簡易舗装工事(与那嶺平敷・諸志与那嶺)
- ・防護柵設置(平敷)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
62,637	62,637	50,110	12,527	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村の契約規則に基づき、委託は随意契約とし、工事請負業者は指名競争により入札を行い、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、835千円の予算減額を行ったが適正だと考えております。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②		環境保全美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	担当部署名	住民課 経済課 建設課 教育委員会		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)
事業内容	<p>・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受け入れ体制を整える。 また、地域環境の保全、地域住民及び観光客の安全と誘客を図り景観を保全するため、不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の対策を強化する。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a) 当初予算額	28,333	50,120	32,728	30,694	
	(b) 予算現額	28,333	48,672	35,097	32,961		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,448	2,369	2,267		
	(d) 前年度繰越額	-	-	-	-		
	A. 計 (b+d)	28,333	48,672	35,097	32,961		
	B. 執行済額	25,282	48,672	35,097	32,961		
	うち交付金充当額	20,226	38,937	28,077	26,369		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)	89.2%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	・当初、共済費・賃金は10ヶ月を予定しておりましたが、必要な予算は11ヶ月分であったため1ヶ月分及び需用費等を含めた2,267千円の増額を行い、予算の範囲内で適正な執行が行えたと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	・村内の観光地の美化作業の実施 ・歴史・文化的な松並木の景観保全の実施 ・花植え付けの実施	目標	(27路線)	(27路線)	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施	
		実績	27路線実施	27路線実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・今帰仁城跡、古宇利島を中心とした観光地及び観光ルートの美化及び危険木の伐採を実施し、快適な観光客の受入ができた。また、台風襲来前に、危険木等を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。 ・今帰仁グスク桜まつりや古宇利島ハーフマラソンなど各種イベントで参加者が利用する施設や道路の美化作業も実施することができた。 ・ハブ捕獲・回収による駆除対策、不法投棄のパトロール、投棄物の回収や不法投棄防止看板設置等により、事業を幅広く実施することができた。 ・歴史・文化的な松並木の樹木強化を図り、白アリの被害に対しても防除を行い景観を保全することができた。樹木の強化については、木の直径が大ききもの、小さいものを含めてバランスよく樹木強化を実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	27年度
	・今帰仁城跡及び観光地の美化 ・観光ルートの美化(20路線)全体美化のうち美化率10%行方 累積整備率(101路線)50% ・歴史的・文化的な松並木の景観保全 白アリの防除55本 全体防除のうち 防除率30%行方 累積防除率(110本)60%	目標	()	(27路線)	(27路線)	①27路線 ②55本 ③110本	①20路線 ②55本
		実績		27路線実施	27路線実施	①27路線実施 ②55本実施 ③54本実施	①20路線 ②70本
	・樹木の強化50本 全体強化のうち 強化率23%行方 累積強化率(100本)46% ・花植え付け10字 全体のうち 実施率52%行方 植付実施率52%	目標	()	()	()	()	③50本 ④10字
		実績					③101本 ④19字
進捗状況説明	・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化及び危険木の伐採を実施し、快適な観光客の受入ができた。また、台風襲来前に危険木等を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。 ・事業を4年間継続することにより、台風ハブの拡散の防止を図り、また、不法投棄のパトロールや投棄物処理及び不法投棄防止看板設置等により、観光客がより快適に観光を楽しむように事業を強化することができた。 ・歴史・文化的な松並木の土壌改良剤による樹木の強化を図り、白アリの被害に対しても防除をおこない景観を保全することができた。樹木強化においては木の直径が大ききもの、小さいものを含めてバランスよく樹木強化を実施した。 ・花植え付けについては、10字の予定であったが全字の19字を実施することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡、古宇利島、や乙羽岳森林公園等の観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。 ・花植え付けについては、全字の19字実施することができた。 ・近年は、これまで観光地化されていなか自然海岸が人気スポットとして脚光をあびており、自然海岸を訪れる観光客が増加している。このような中、外国人観光客のドライバーによる事故などが増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や乙羽岳森林公園やウッパマビーチ等の観光地及び観光ルートの美化を実施し快適な観光客の受入ができた。しかし、今後は、美化及び環境(ハブ等含む)でできなかった観光地や観光ルートがあるので次年度以降も継続して美化を実施し、観光客受入を整えたい。 ・花植え付けは、19字実施できたが今後は花の手入れ及び管理を徹底して行う必要がある。 ・観光客の訪れる海岸の清掃や周辺の保安林や海岸への接続道などの美化作業などにも取り組まなければならない。

今後の取り組み方針

・台湾ハブなど危険生物の駆除や、不法投棄のパトロール、投棄物の回収・処理をすることにより、本村の自然・環境を保ち、観光の村として、環境美化にいつもの取り組みをする。本村の観光拠点等の不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の事業を、4年度目以降も継続実施して、さらにより深く実施したい。

・歴史・文化的な松並木の景観を保全する為に樹木の強化を図り、白アリ被害に対しての防除も継続的に実施したい。また、防除全体計画に沿って農村公園等の松の白アリ防除、樹木の強化を実施していき。

・近年は、これまで観光地化されていなかった自然海岸が人気スポットとして脚光をあびており、自然海岸を訪れる観光客の増大に対応するため、海岸の清掃や周辺の保安林や海岸への接続道の美化作業なども実施したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
32,961	32,961	26,369	6,592	0



資金の流れ、費目・点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・点検項目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内の業者を優先しており、妥当であると考えております ○予算規模は、事業に必要なものに限定しているため適正な規模であると考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり	
事業内容	・前年度モデル地区となった今泊地区を除く各字それぞれの景観むらづくりの支援メニューを各字ヒアリング、地域代表者意見交換会を開催しながら検討を行い、各字むらづくり支援メニューの作成を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,850	4,281	3,182	3,954	
		(b) 予算現額	3,850	4,035	2,916	3,780	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 246	▲ 266	▲ 174	
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		3,850	4,035	2,916	3,780	
	B. 執行済額		3,570	4,035	2,916	3,780	
	うち交付金充当額		2,856	3,228	2,332	3,024	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		92.7%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・予算の範囲内で適正な執行が行えた。また、不用額の174千円は入札残及び需要費減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	・地域代表者意見交換会の開催(3回)	目標	(景観計画策定)	(景観向上行動計画の策定)	ハード事業・ソフト事業の行動計画の策定	・意見交換会3回	
		実績	景観計画策定	景観向上行動計画の作成	ハード事業・ソフト事業の行動計画の策定の実施	各字ヒアリング調査各字1回(全19字)	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
	達成状況説明	・各字へのヒアリング調査をアンケート形式で行い、庁内関係各課で構成する景観むらづくりプロジェクトチーム会議を経て、景観むらづくり支援メニューの作成に至った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	27年度
	・各地域の意向を把握し、プロジェクトチームにおいて景観むらづくり支援の実施に向けた調整、協議を行い景観むらづくり支援メニューの作成	目標	()	(条例の制定)	(景観条例の施行)	ハード事業・ソフト事業の行動計画のとりまとめ	景観支援メニューの作成
		実績		条例制定の実施	景観条例の施行	ハード事業・ソフト事業の行動計画のとりまとめの策定	景観支援メニューの作成
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・前年度モデル地区となった今泊を含む各字それぞれの景観むらづくり支援メニューを各字へヒアリングをアンケート形式で行い、各地域の意向を把握し、プロジェクトチームにおいて景観むらづくり支援の実施にむけた調整、協議を行い景観むらづくり支援メニューの作成に至った。					

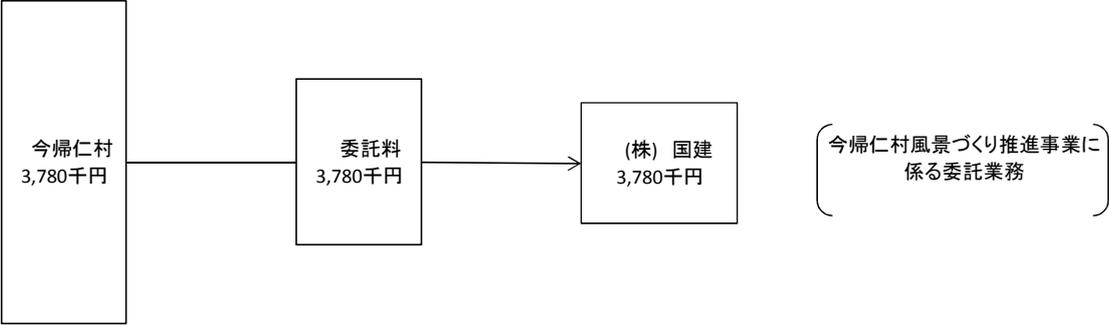
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・当初、各字区長を集め、風景づくりに関する課題や必要な支援等を意見交換会において把握する予定であったが、各字の多くの方から意見を聴取するべく、アンケート形式のヒアリング調査を行った。各字ごとの捉える課題の濃淡は把握できたが、アンケート項目が多く、住民から負担であるとの意見もみられた。</p>	<p>・平成27年度は、景観村づくり支援メニューを作成した。複数の支援メニューを支援に係る費用や効果の観点から優先順位を検討したが、風景づくりという定性的な性格の強い分野であり、効果の比較が定量的には示すことが困難であった。今後検討が必要である。</p>

今後の取り組み方針

・平成27年度は景観むらづくり支援メニューを作成した。今後地域代表の意見交換会の庁内景観むらづくりプロジェクトチーム会議、景観委員会等を開催し、景観むらづくり支援要綱の作成が必要になる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,780	3,780	3,024	756	0



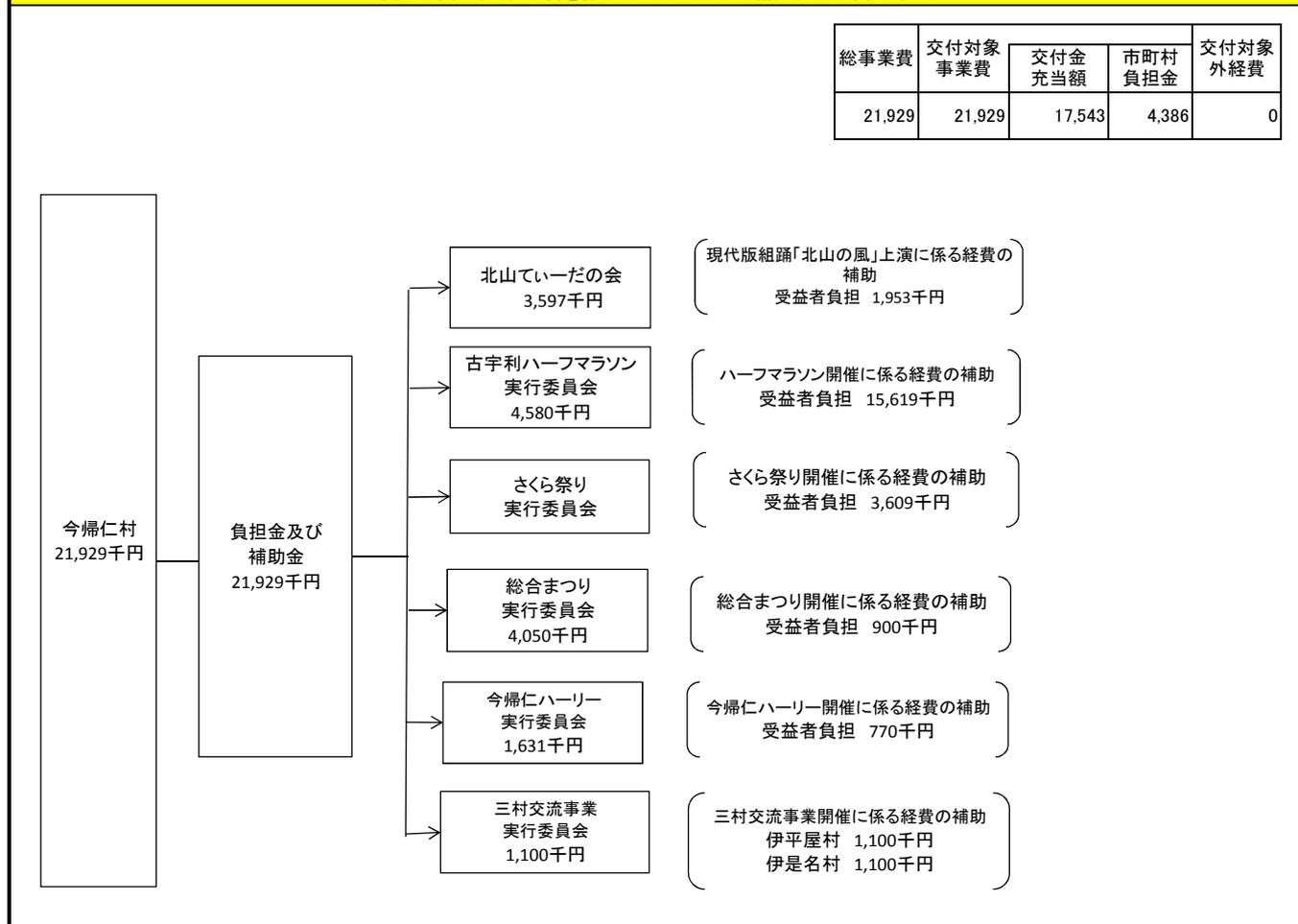
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者につきましては、指名競争入札方式で行った為、妥当だと考えております。 ○予算規模についても、174千円の減額を行い、適正だと考えております。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④		観光力基盤強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
	担当部署名	経済課 総務課 建設課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄ブランドの確立
事業内容		・今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、総合まつり、ハーリー、さくら祭り、運天港いちやり場まつり、などのイベントを実施する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。					Ⅲ-1-(1)
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	31,514	25,550	24,300	20,530	
		(b) 予算現額	31,514	29,374	29,300	21,929	
		(c) 増減額 (b-a)	0	3,824	5,000	1,399	
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	31,514	29,374	29,300	21,929	
	B. 執行済額		31,417	29,374	29,300	21,929	
	うち交付金充当額		25,134	23,499	23,440	17,543	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施し、適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・①現代版組踊「北山の風」開催(8月・10月・2月) ・②古宇利ハーフマラソン開催(4月) ・③今帰仁城跡ライトアップ桜まつり開催(1月)	目標	(4回講演)	(イベント開催の支援)	(各種イベントの開催支援)	①8月・10月・2月 ②4月 ③1月	
		実績	4回実施	イベントの実施	各種イベントの開催支援	①11月(2回)・2月(2回) ②4月 ③1月	
	・④今帰仁まつり開催(10月) ・⑤今帰仁ハーリー開催(8月) ・⑥三村交流事業開催(11月)	目標	()	()	()	④10月 ⑤8月 ⑥11月	
		実績				④10月 ⑤9月 ⑥11月	
達成状況説明		・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り。総合まつり、今帰仁ハーリー、三村交流事業については、計画通り実施及び開催ができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	27年度
	①北山の風 イベント開催来場者数 ②古宇利ハーフマラソン参加者数 ③今帰仁城跡ライトアップ・さくら祭り来場者数	目標	()	4回	① 3回 (村内1 村外2) ② 2,500人 ③ 39,000人	① 1,000人 ② 2,500人 ③ 39,000人	① 1,200人 ② 3,500人 ③ 40,000人
		実績		4回	① 3回 (村内1 村外2) ② 2,927人 ③ 39,400人	① 1,150人 ② 3,503人 ③ 47,927人	① 1,288人 ② 3,471人 ③ 34,645人
	④今帰仁村総合まつり来場者数 ⑤今帰仁ハーリー大会出場者数 ⑥三村交流事業来場者数	目標	()		④ 8,000人 ⑤ 60チーム	④ 10,000人 ⑤ 770人 ⑥ 800人	④ 10,500人 ⑤ 825人 ⑥ 900人
		実績			④ 9,000人 ⑤ 64チーム	④ 10,000人 ⑤ 814人 ⑥ 800人	④9,700人 ⑤732人 ⑥900人
	進捗状況説明		・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り、総合まつり、今帰仁ハーリー、三村交流事業については、計画通り実施及び開催ができた。 ・さくら祭りについては、計画通り実施及び開催することができたが、天候や桜の開花状況の影響もあり、目標の来場者数を達成することができなかった。 ・今帰仁村ハーリーについては、前年度より参加者を超えるよう、目標として実施したが他地域と開催日が重なったため参加人数が目標に達することができなかった。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・古宇利ハーフマラソンは今大会、ランナーの安全性を確保するため、11kmの部を廃止しハーフの部のみ行った。申込者は減少するのではとの懸念もあったが目標数値とほぼ同数の3,471人の参加申込があった。 ・他のイベントで今帰仁村、今帰仁村総合まつりのPRを行い、宣伝効果が図られた。 ・今帰仁ハーリーを観光ハーリーとしてリニューアルしたが、村内外からの参加者、観光客の参加が増加に転じるよう、他地域の動向、広報活動及び内容の充実を図る必要がある。 ・今帰仁グスク桜まつりは、前年度同様、開催前より新聞やラジオでの告知を重ね、特にまつり期間中のラジオ出張番組をすることによって、宣伝効果を図った。また、外国人観光客の対応として、案内看板等の多言語表示や通訳を配置した。前年度より来場者の増加を予想し、臨時駐車場を増やし、そこからシャトルバスの運行、城跡内の混雑を防ぐため誘導整理員を配置した。しかし、今年度は、桜の開花状況等を考え、まつり期間を1週間遅らせることにしたが、天候に恵まれず、また桜の開花もまつり期間終了間近に満開を迎えたため、目標の入場者数を達成することができなかった。 ・北山の風は、村内での公演活動が中心となっているが、来場者確保を継続していく上で村外での公演活動も行っていく必要がある。しかし、チケット収入のみの運営については、経費の面で厳しい部分がある。 ・三村交流事業は、フェリー遊覧が好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古宇利ハーフマラソンは今回初めて、台湾からの団体参加があった。外国人観光客が増えている中、外国人でも参加しやすい運営を目指していきたい。 ・もっと直接的に集客につながるよう工夫を行う。また、今後は来村者からリーダーにつながる努力も行わなければならない。 ・桜まつり開催期間を今後、桜の開花時期に合わせて行うのか検討する必要がある。また、雨天の場合も来場してもらえるようイベントやライトアップに工夫する必要がある。 ・三村の農林水産物を加工した新たな特産品を開発し、お互いの魅力をアピールしていきたい。 ・北山の風は、今後は、更なる入場者数の増大を図るために、村外での公演活動にも力を入れていかなければならない。しかし、村外での活動は多くの経費を要するため、厳しい状況にある。村外で行われる他イベントや他事業とのタイアップなどで経費の節減を行い、取り組んでいきたい。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「北山の風」は、これまで数々の公演活動を行っており、入場者数も徐々に増え、実績も残している状況にある。今後は、村外公演にも取り組み、入場者の確保に努めていきたい。 ・村民及び観光客等に飽きさせないような各種イベントの充実を図るとともに、今後は村外及び県外等からの集客を増やすようなプログラムづくりに努める。 ・観光客の体験ハーリー等の参加者をもっと増やすことなど次年度以降も継続し、観光客誘致につなげる。 ・今帰仁グスク桜まつりは、世界遺産・今帰仁城跡を広くPRし、年間の来場者数を増やすための重要なイベントであるとする。そのためにも桜まつりの告知・宣伝にもっと力を入れていきたい。また、今年度同様、外国人観光客の対応や臨時駐車場を確保する。 ・三村交流事業は、三村の住民による参加型のイベントを開催し人的交流を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費用	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考えております。 ○ 予算規模についても、各実行委員会でのイベントに見合った適正な規模であった。 ○ 補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており、適正であった。 ○ 費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 今帰仁村

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (3-5), 観光地安全強化事業, 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-3-(2)-ウ), 観光客の受入体制の整備. Includes 担当部課名 (教育委員会 社会教育課) and 事業実施(予定)年度 (平成24~33年度).

事業内容: 主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。

実施方法: 直接実施, 委託, 補助, 負担, その他

Table with columns for years 24年度 to 28年度. Rows include: 予算額・執行額 (予算の状況: (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額, (d)前年度繰越額), 執行済額 (A.計, B.執行済額), うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A). Includes a note: 予算の状況の説明: 不用額が235千円発生しているが、入札残によるものである。予算内での適正な執行が行えた。

Table for Activity Objectives (活動目標) and Achievement Status (達成状況). Columns: H27活動目標(指標), 24年度, 25年度, 26年度, 27年度. Includes a detailed '達成状況説明' (Achievement Status Explanation) regarding safety measures for tourists at the site.

Table for Achievement Objectives (成果目標) and Progress Status (進捗状況). Columns: H27成果目標(指標), 基準値(23年度), 24年度, 25年度, 26年度, 27年度. Includes a detailed '進捗状況説明' (Progress Status Explanation) regarding safety measures for tourists at the site.

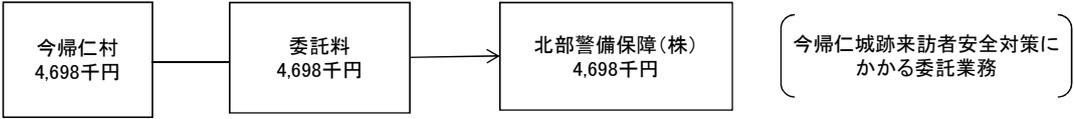
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置する。しかし、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど多くの観光客等が訪れており更なる安全対策が課題である。</p>	<p>・世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど安全対策が必要である。</p>

今後の取り組み方針

・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置することで、城跡の安全安心をより一層発信することができ更にリピータに期待し、継続して行きたい。また、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど更なる世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全安心の確保強化に取り組む必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,698	4,698	3,758	940	0



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模については、適正規模であると考えております。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑦		今帰仁城跡ガイド強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部署名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成 Ⅲ-1-(1)
事業内容	<p>・今帰仁村には世界遺産今帰仁城跡が所在し、今帰仁グスクを学ぶ会によって来場者に無料ガイドが行われている。学ぶ会の更なる充実強化を図ることで、ガイド個々の資質向上が図られ、今帰仁城跡の魅力を観光客にアピールすることが出来るためガイドの強化を行う。</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a) 当初予算額	3,560	3,769	3,690		
	(b) 予算現額	3,210	3,690	3,690			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 350	▲ 79	0			
	(d) 前年度繰越額	-	-	-			
	A. 計 (b+d)	3,210	3,690	3,690			
	B. 執行済額	3,210	3,690	3,690			
	うち交付金充当額	2,568	2,952	2,952			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・予算内での適正な執行が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	・案内に資する知識を得るために講演会(1回)及び研修会(2回)を開催する。	目標	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	(講演会1回 研修会2回)	(講演会1回 研修会2回)		
		実績	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	講演会1回実施 研修会3回実施	講演会2回 研修会4回		
	目標	()					
		実績					
	達成状況説明	・講演会・研修会の開催、他団体主催の研修会への参加、城跡等文化財散策ツアーの実施を通して、ガイドの資質向上が図られている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	28年度
	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	目標	()	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	
		実績		・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	
	・ガイドによる来訪者の案内11,700名目標	目標	()	(11,000名)	(11,600名)	(11,700名)	
		実績		11,419名	12,603名	12,782名	
	進捗状況説明	・講演会、見学会等の実施を通してガイドの資質向上を図り、併せて実施した文化財散策ツアー等により、案内ガイドの訓練実績を重ねてきた。平成27年度に来訪者への案内は、目標数値を上回る12,782名の案内実績を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・講演会、研修会の実施回数を増やし、イベントにあわせてガイドツアー等を実施することにより知識と案内技術の向上に努めている。一方、高齢化等に伴うガイドメンバーの減少がみられ、増員を実施する必要がある。</p>	<p>・平成27年度、今帰仁城跡の入場者数は前年度比約7,000人増となり、これに伴い案内ガイドの回数も増加するに至ったと考えられる。平成28年度も観光担当部局との連携による観光客誘致活動を引き続き進めていく予定であり、さらなる入場者数の増加を見込んでいる。そのため、数名程度ガイドメンバーの増員を検討したい。</p>

今後の取り組み方針

・今後も講演会、研修会、見学会等を実施して、さらに案内に資する知識や経験を重ねていく。また、メンバーの増員を図り、案内実績を増やす努力ができるように行政側からもバックアップを実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,690	3,690	2,952	738	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約10年の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先であったと考えている。</p> <p>○予算規模については、適正規模だと考えております。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑨		今帰仁村観光情報発信強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
	担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	<p>・今帰仁村観光関連情報の提供、観光案内板の設置、年間通して行われる各種イベントの周知、村特産品の情報発信を強化し、今帰仁村の観光情報を最大限に活用し、今帰仁村の知名度アップを図る。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,715				
		(b) 予算現額	7,057				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 658				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	7,057				
	B. 執行済額		7,057				
	うち交付金充当額		5,645				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		<p>・当初計画していた事業内容は、すべて実施し適正であったと考える。また、658千円の不用額は、今帰仁村ウエルカムサイン等案内板製作・設置委託業務の入札残によるものである。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・イベント情報案内板の設置 ・特産品フェアの開催	目標	・案内板の設置 ・特産品フェアの開催(1回)			()	()
		実績	・案内板の設置 ・特産品フェアの開催(1回)				
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	<p>・今帰仁村の村境に歓迎及びイベント情報を周知することができる案内板を2基設置することができた。また、県外及び外国人観光客が多く集う場所で観光及び特産品フェアを開催することで今帰仁村を広くPRすることができた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	27年度	28年度	29年度	30年度
	・今帰仁村の西地区と東地区に看板を設置し、イベント情報案内の実施	目標	()	・看板設置及びイベント情報案内		()	()
		実績		・看板設置2基			
	・今帰仁村特産品のPRを実施	目標	()	・特産品PRの実施		()	()
		実績		・特産品PRの実施(2日間)			
	進捗状況説明	<p>・案内板等設置のための用地測量業務、用地取得及び案内板制作・設置委託業務、イベント委託業務について計画どおり実施、開催することができた。</p>					

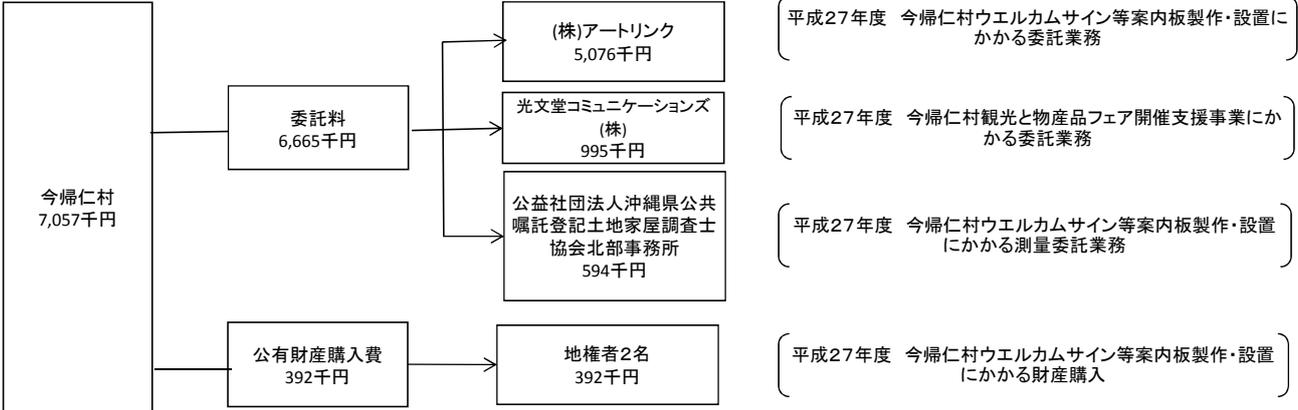
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が多く通るルートに、今帰仁村への歓迎看板を設置し、観光客に今帰仁村を広くPRすることができる。また看板に付属する懸垂幕装置にイベント情報を掲げることで今帰仁村の観光及び各種イベント情報等を発信することが可能となった。 観光と特産品フェアを開催することで、今帰仁村の観光情報や特産品を県内のみではなく、県外、外国人観光客に広くPRすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今帰仁城跡などの観光資源や古宇利ハーフマラソンや桜まつりなどのイベント情報を随時懸垂幕装置に掲げることができるよう予算の確保を行い、活用する。 観光と特産品フェアについては、今回の事業をモデルとして商工会又は観光協会が自主事業として実施できるよう支援していかなければならない。

今後の取り組み方針

・今帰仁村の観光・イベント情報を来訪者へ発信し、着地滞在につなげ今帰仁村の魅力を十分に体感することで今帰仁観光のリピート率を高めていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,057	7,057	5,645	1,412	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、三者見積もり及び指名競争入札などを行い、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、案内板制作・設置委託業務の入札残による658千円の予算減額を行ったが、適正であったと考えている。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのかについて額の確定時において支出簿に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	経済課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	・安定した素生産地の確立のための今帰仁村和牛改良組合が、沖縄県農業協同組合の貸付牛を導入する際に、導入牛の価格に対し支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		(a) 当初予算額	10,500	10,500			
	(b) 予算現額	10,252	10,139				
	(c) 増減額(b-a)	▲ 248	▲ 361				
	(d) 前年度繰越額	—	—				
	A. 計(b+d)	10,252	10,139				
	B. 執行済額	10,252	10,139				
	うち交付金充当額	8,201	8,111				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明	・予算範囲内での適正な執行が行えた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		26年度	27年度	28年度	29年度		
	・繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に支援を行う	目標	1頭あたり50万円を上限に補助	1頭あたり50万円を上限に支援	()	()	
		実績	1頭あたり50万円を上限に補助の実施(平均1頭41万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭44万円)			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・セリ相場の変動等もあり、1頭あたり平均44万円の補助となったが、高得点候補牛の導入が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		目標	()	21頭導入(導入率:12.3%)	21頭導入(導入率:12%)	()	()
	・繁殖牛 21頭導入 ・全体計画のうち 導入率12% ・累積導入率(42頭) 25%	実績	/	25頭導入(導入率:14.7%)	23頭導入(導入率:13.5%)		
		目標	()	()	()	()	()
		実績	/				
		進捗状況説明	・成果目標の21頭を上回る、23頭(13.5%)導入することが出来た。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より県内導入が増えており、今後も県内での導入牛を増やすことを視野に事業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は、早い時期より事業実施が行えた。今後も、年間を通してよりよい雌牛の導入を行う。

今後の取り組み方針

- 生産者の意識も向上してきており、より高得点の見込まれる雌牛導入を目指す。
- 和牛改良組合、JA、関係機関を含め年間を通して、県内・県外おける優良雌牛の情報に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,392	10,139	8,111	2,028	11,253



今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業に関する委託
(受益者負担額: 11,253千円)

総事業費	21,392千円
交付対象事業費	10,139千円
受益者負担	11,253千円

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○沖縄県農業協同組合と事務委託契約を結び選定方法は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、361千円の減額を行い、適正規模と考えております。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は、11,253千円となり負担関係は妥当だと考えております。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	墓地基本計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部署名	住民課	事業実施(予定)年度	平成26~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	・村の景観や住環境に配慮し、墓地の適正配置及び集約を図るため、総合的な指針となる「今帰仁村墓地基本計画」を策定する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計(b+d)		6,300	9,504			
			5,724	8,424			
			▲ 576	▲ 1,080			
			—	—			
			5,724	8,424			
	B. 執行済額		5,724	8,424			
	うち交付金充当額		4,579	6,739			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・予算の範囲内で適正な執行が行えた。また、不用額の1,080千円は入札残によるものである					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・今帰仁村墓地基本計画の策定	目標	(墓地実地調査立地特性の把握)	墓地基本計画の策定	()	()	
		実績	墓地実地調査の実施立地特性の把握の実施	墓地基本計画の策定			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・村民の意見収集のため2,500世帯へアンケート調査を実施した。その後、広く意見収集及び基本計画を策定する周知のために、全行政区において住民説明会を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・今帰仁村墓地基本計画の決定	目標	()	19字分布図の作成	墓地基本計画の決定		
		実績		19字分布図の完成	墓地基本計画の決定		
	・墓地基本計画を策定することで、今後の墓地における行政の考え方が示すことができ、住民へ墓地利用に対する的確な対応が可能となる。	目標	()	()	墓地利用に対する的確な対応		
		実績			墓地利用に対する的確な対応が可能となった		
	進捗状況説明	・アンケート調査結果や策定委員会での審議により、本村の今後の総合的な墓地施策の指針となる今帰仁村墓地基本計画を策定した。					

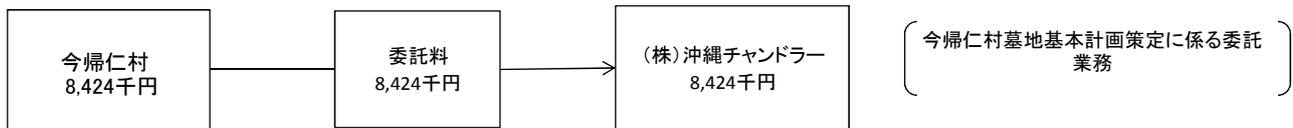
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地基本計画を作成し、各自治会長へ配布した。村内の墓地は、多くが管理されており、無縁墓地が少ない状況にある。また、村内各字で墓地集約化されているが、墓地の散在化が見られる地域がある。今後も、広報活動などを通して墓地の適正な維持管理の周知の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地の散在化防止対策 ・墓地用地の確保 ・無許可墓地対策

今後の取り組み方針

- ・墓地の経営設置許可を受ける必要性の周知を行う。
- ・墓地の適正な維持管理の必要性などの周知を行う。
- ・墓地の管理者や使用者に対して、継承者が居なくなる問題点の周知活動など、無縁墓地についての対策を行う。
- ・墓地規制区域および墓地区域の設定に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,424	8,424	6,739	1,685	0



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、入札残による減額であり適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	幼保連携一体化施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
担当部署名	幼保連携室	事業実施(予定)年度	平成27~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4		
事業内容	・就学前の子どもを持つ家庭の育児支援や連続性のある幼児教育、保育環境を創出し、保育サービスの拡充と地域の子育てニーズや新制度に対応したバランスのとれた総合的な子育て支援を行うため、就学前の幼児教育・保育を一体的に担う「幼保連携一体化施設」の整備を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,986				
		(b) 予算現額	8,856				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 130				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	8,856				
	B. 執行済額		8,856				
	うち交付金充当額		7,084				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		・予算範囲で適正な執行が行えた。130千円の減額は入札残によるものです。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	・基本計画の検討 ・基本設計の検討	目標	・基本計画の検討 ・基本設計の検討				
		実績	・基本計画の策定 ・施設計画の策定				
		目標					
		実績					
	達成状況説明	・子ども・子育て会議や庁内策定委員会にて基本計画の検討を行い、認定こども園の施設整備計画については、基本理念や基本目標のほか、ワークショップ等にて居室や園庭等の配置等を検討した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	・幼保連携一体化の基本的な施策の決定(基本計画の策定)	目標	()	・基本計画の決定			
		実績	/	・基本計画の決定			
	・施設整備の基本的な方向性の決定(基本設計の策定)	目標	()	・基本設計の決定			
		実績	/	・基本設計の決定			
	進捗状況説明	・子ども・子育て会議や庁内策定委員会にて「今帰仁村幼保連携一体化総合整備計画」を策定、認定こども園の施設整備計画については、基本理念や基本目標のほか、ワークショップ等にて居室や園庭等の配置等を検討し基本的方向性を決め、その意見をもとに平面図・立面図等を作成した。					

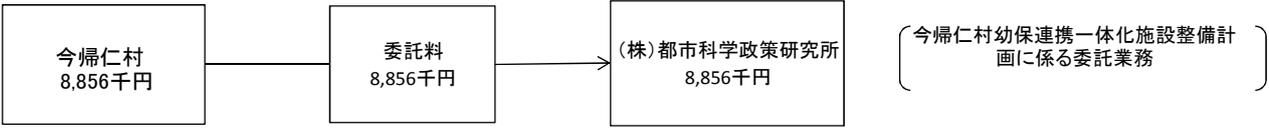
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 計画地の最終確定に時間を要してしまい、認定こども園開園時期が平成30年4月から平成31年4月へ1年延びた。 子ども・子育て会議、ワークショップ、住民説明会等を行い、様々な方向から意見を取り入れ幼保連携一体化施設整備計画の策定を行った。 認定こども園建設予定地の確定に伴い、周辺道路の整備や地域住民の生活環境の変化への対応などが今後課題となっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 開催時期が遅くなったので、公立保育所の閉園時期などを調整することで、待機児童の受け皿の確保をしつつ、平成31年4月の認定こども園へのスムーズな移行を行っていく。 子ども・子育て会議、ワークショップ、住民説明会等は今後も定期的に行い、意見の聴取や進捗状況の報告を行っていく。 認定こども園建設予定地の隣接民有地の確保に努め、その民有地及び村有地を活用しての送迎用駐車場の拡充を行う必要がある。また、地域住民の環境変化については、予め計画の趣旨を説明し理解を促す。最終的に施設に隣接する世帯からは同意書をもらう。

今後の取り組み方針

・平成27年度に策定した「今帰仁村幼保連携一体化総合整備計画」を基に、平成28年度には「実施設計」「測量・造成設計」を行う。
 ・計画地内の民有地を取得し、測量及び地質・磁気探査業務を行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,856	8,856	7,084	1,772	0



資金の流 れ、費 目・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、入札残による減額であり適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	